

記者発表資料

# 下釜ダム湖における 藻類の調査結果について

～有毒物質ミクロキスチンLRを検出（基準値以下）～

○下釜ダム湖については、藻類の発生に伴い監視強化や水質調査等を行ってきました。今回、水質分析結果をお知らせします。

○最も藻類が多い箇所（表面部分）について毒性調査を実施した結果、有毒物質であるミクロキスチンLRが0.31 $\mu$ g/L検出されましたが、厚生労働省の水道水質基準（要検討項目）の目標値（0.8 $\mu$ g/L）等は下回っている状況です。

○水道水については、ミクロキスチンLRは浄水場の通常の塩素処理により分解除去できます。

○当事務所では、今後も貯水池の監視強化及び水質調査を実施します。

【記者発表相手先】日田市記者クラブ

《問い合わせ先》

国土交通省 九州地方整備局 筑後川ダム統合管理事務所

管理課長 松岡 忠浩 内線（331）

電話：0942-39-6651（代表）

090-1871-6259（携帯）

FAX：0942-35-8242（代表）

## 1. 概要

9月中旬から下釜ダム湖上流部分の津江川と上野田川の合流点付近で、アオコの原因とされるミクロキスティス属を優占種とする藍藻類が発生しており、藻類の発生により監視強化や水質調査等を行っています。(9月18日記者発表)

今回、毒性についての水質分析結果が出ましたのでお知らせします。

## 2. 調査結果

採水日 : 9月16日

採水状況 : 最も藻類の色が濃い下釜ダム貯水池の上流側の津江川と上野田川の合流点付近において、藻類が風の吹き寄せ等で集まった表面部分の水を分析

分析結果 : 有毒物質であるミクロキスチンLRを0.31 $\mu$ g/L検出

※ミクロキスチンは、藍藻類ミクロキスティス属が産出することがあります。

ミクロキスチンLRについては、厚生労働省が水道水質基準の要検討項目として目標値0.8 $\mu$ g/L(暫定)、WHO飲料水のガイドライン値1.0 $\mu$ g/L(暫定)があります。今回の調査結果は両方の目標値・ガイドライン値を下回っている状況です。

※1 $\mu$ g/L=0.001mg/L

## 3. 水道水への影響

水道水については、ミクロキスチンLRは浄水場の通常の塩素処理により分解除去できます。

## 4. 松原・下釜ダム及び下流の状況

### ①下釜ダムの状況

- ・藻類の色が最も濃いのは、ダム堤体から約5km上流の津江川と上野田川の合流点から上流です。
- ・藍藻類(ミクロキスティス属)は、表面に発生しています。
- ・ダムからの放流は、水面より約40mの水深部から行っています。

## ②松原ダムの状況

- ・ 下笠ダムのすぐ下流に位置する松原ダム湖の色の異常はなく、10月13日の調査結果（速報）では藍藻類ミクロキスティス属は確認されていません。

## ③松原ダム下流の河川の状況

- ・ 河川水の色の異常はありません。  
なお10月15日に下流河川でも採水し、現在分析を実施しています。

## 5. 今後の対応

- ・ 貯水池の監視強化を継続します。
- ・ 水質調査を継続実施します。
- ・ 現在、藻類は粒が小さく回収できない状況ですが、固まりに近い状態となり回収可能となった場合は回収を行います。
- ・ 状況については、関係機関と密な情報交換を行っていきます。
- ・ また、ホームページにおいても適宜公表します。

# 藻類発生状況

(平成21年10月14日現在)

